

ロヤジルガ 「国民大会議」

アフガニスタンの伝統的な、最高国民意思決定機関。イスラムの伝統を重んじる部族社会のアフガニスタンでは、部族の意思を決定し、支配者や行政機関に反映させるため、また支配者が重要事項を諮問するために、ロヤジルガをはじめ部族レベルのジルガ、町や村のシューラなどの評議制度が伝統的にある。

歴史的な役割を果たしたのは、1747年、現在のアフガニスタンにつながる最初の統一国家の原型がパシュトン族の部族連合によって創られた時のロヤジルガ。部族長たちはカンダハルで9日間の会議のあと、アハマト・シャー・アブダリを最初の王に選んだ。「ロヤジルガに参加した部族長たちは、頭にターバンを巻き、王への忠誠の印であるガラス板をそれにつけた。ロヤジルガは伝統的な法的機関となり、新しい支配者に正統性を与え、世襲を避けることになった。支配者は、ロヤジルガで部族代表によって選ばれた、と胸を張ることができた。」(アハマト・ラシッド著、坂井定雄訳「タリバン」)

以後、歴代の国王、支配者は、外国との戦争や条約、憲法の制定、国王後継者の決定など、国家的最重要事項を決定する際に、ロヤジルガを開催してきた。全権を持つ国王との関係は、国王の諮問を受けて、国民の最高意思を決定し、国王に答申することだが、事実上、国王はロヤジルガの決定に従ってきた。

憲法に明記 アフガニスタンでは、1973年、長年続いた王制がクーデタで打倒され、ダウド政権の共和国となり、さらに78年の人民民主党によるクーデタで親ソ連の人民民主党政権が樹立された。その直後から国内のイスラム部族勢力の反乱で内戦状態になったが、親ソ連政権最後のナジブラ政権が制定した「アフガニスタン共和国憲法」では、初めてロヤジルガの権限について、次の4項目を明記した。

1. 憲法の承認と修正 2. 大統領の選出と辞任承認
3. 開戦と停戦の承認 4. その他国家の運命にかかわる最重要事項の決定

ロヤジルガは、国会議員、各州知事とカブール市長、閣僚、および大統領指名の50人を超えない科学者、社会・宗教指導者などの著名人で構成され、大統領が招集、開催する。

アフガニスタン戦争後のロヤジルガ 91年の米国などによるアフガニスタン戦争で、タリバン政権が崩壊後、暫定政権は2002年6月、緊急ロヤジルガを開催。パシュトゥン人で、暫定政権議長のハミド・カルザイを移行政権大統領として承認。移行政権が正式に発足した。

再建アフガニスタンの基礎となる新憲法制定のため、2003年12月13日に開催されたロヤジルガには、全国から選ばれた45人と大統領指名の52人の計502人の議員が参加。3週間にわたる激論のあと、イスラム強硬派と柔軟派が妥協、全160条の新憲法を採択した。議論の焦点は、イスラム法を国家の法律の基礎としてどれだけ明文化するかだった。新憲法の骨子は次の通り。

1. アフガニスタンはイスラムを信仰するイスラム共和国。他宗教信仰者は法の範囲内で自由に宗教行為ができる
1. いかなる差別も禁止。すべての国民は法の前に平等な権利と義務を持つ
1. 国民の直接選挙による大統領制
1. 国民議会は2院制。国民が直接選挙する下院と地方議会代表および大統領指名者（うち約4分の1は女性）による上院で構成。
1. パシュトゥ語とタリ語を公用語とし、他の少数言語も地域限定で公用語とする

ロヤジルガについては、次のように定めている。

▽110条 ロヤジルガは国民の意志の最高宣言機関。構成議員は国会議員、州と首都などの議会議長。閣僚、最高裁長官と判事は投票権がない構成議員。

▽111条 ロヤジルガは次の事項が必要となき開催する。

- (1) 国家独立、主権、領土その他国家の最重要事項の決定
- (2) 大統領の弾劾の決定

(龍谷大学法学部教授 坂井定雄)